

香川県の地震

令和6年（2024年）6月

香川県の地震活動

震央分布図、断面図	・・・	1
地震概況	・・・	2
香川県の地震表（震度1以上）	・・・	3
震度分布図	・・・	3～4

南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会調査結果

（令和6年（2024年）7月5日）

・・・ 5

地震一口メモ

8月26日が「火山防災の日」に制定されました

・・・ 6～7

この資料の震源リスト・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値であり、後日再調査の上修正されることがあります。

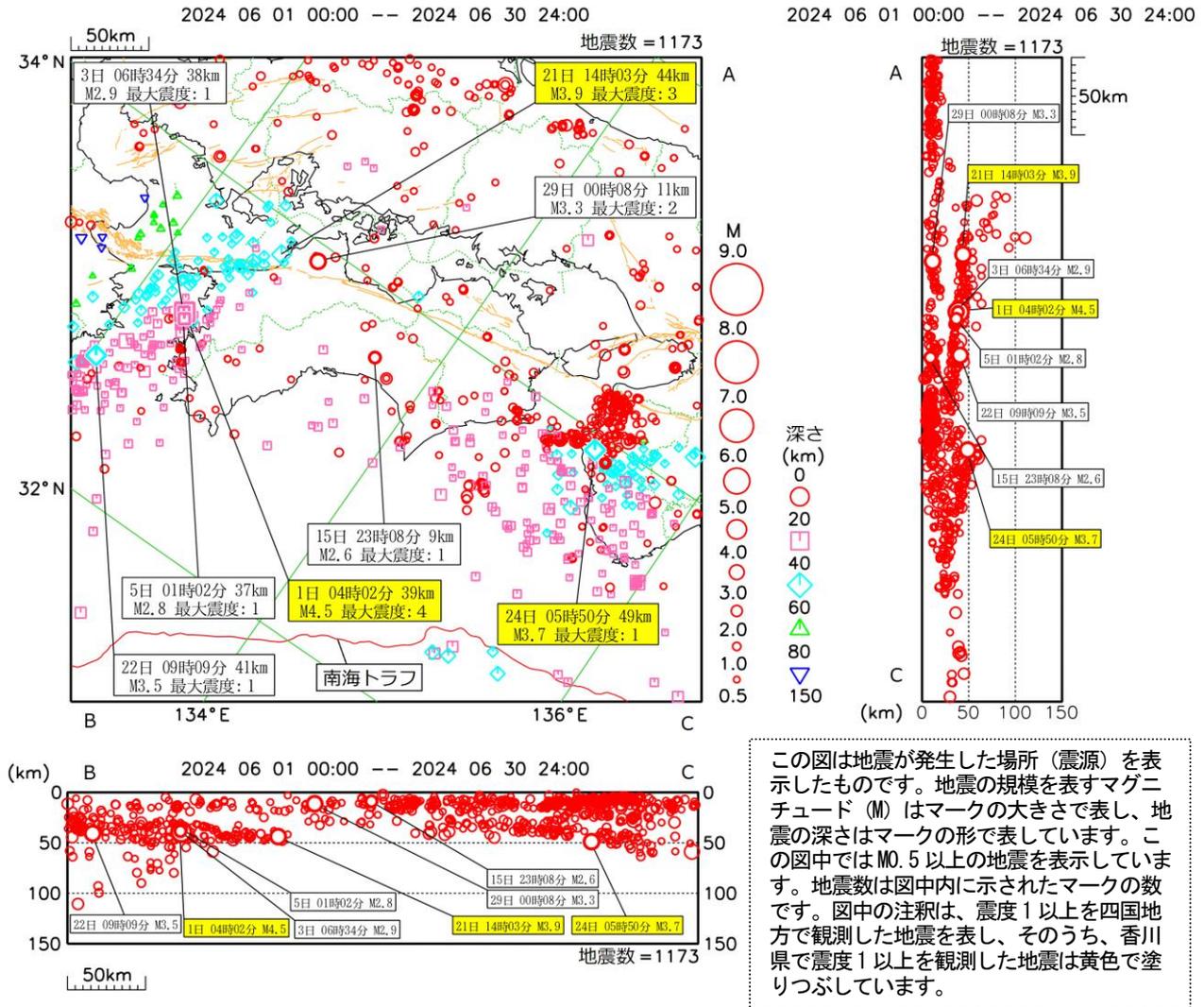
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

高松地方気象台

【香川県の地震活動】

2024年6月

◎震央分布図、断面図



◎地震概況

香川県で震度1以上を観測した地震は、次の4回でした（前月は0回）。

1日04時02分 豊後水道の地震（深さ39km、M4.5）により、観音寺市・多度津町で震度1を観測しました。この地震では、高知県宿毛市で震度4を観測したほか、中国・四国・九州地方で震度3～1を観測しました。

3日06時31分 石川県能登地方の地震（深さ14km、M6.0；震央分布図地区範囲外）と3日06時33分 石川県能登地方の地震（深さ15km、M3.4；震央分布図地区範囲外）により、土庄町で震度1を観測しました。この地震では、石川県輪島市・珠洲市で震度5強を観測したほか、東北・関東・東海・甲信越・北陸・近畿・中国・四国地方にかけて震度5弱～1を観測しました。

* 震源が複数記載されている地震は、ほぼ同時刻に発生した地震であるため、震度の分離ができないものです。

21日14時03分 安芸灘の地震（深さ44km、M3.9）により、観音寺市・三豊市・綾川町で震度1を観測しました。この地震では、愛媛県西条市・大洲市で震度3を観測したほか、中国・四国地方で震度2～1を観測しました。

24日05時50分 和歌山県北部の地震（深さ49km、M3.7）により、東かがわ市・さぬき市で震度1を観測しました。この地震では、三重県熊野市・紀宝町、和歌山県御坊市・湯浅町・由良町・印南町・みなべ町・日高川町・有田川町・田辺市・白浜町・上富田町、徳島県徳島市・鳴門市・小松島市・石井町・板野町・吉野川市・美馬市・つるぎ町・阿南市・勝浦町・那賀町・美波町で震度1を観測しました。

四国で震度1以上を観測した地震は、前述の他に次の6回でした。

3日06時34分 豊後水道の地震（深さ38km、M2.9）により、愛媛県宇和島市、高知県宿毛市で震度1を観測しました。

5日01時02分 豊後水道の地震（深さ37km、M2.8）により、高知県宿毛市で震度1を観測しました。

15日23時08分 高知県中部の地震（深さ9km、M2.6）により、高知県高知市・香美市で震度1を観測しました。

22日09時09分 日向灘の地震（深さ41km、M3.5）により、愛媛県愛南町、大分県佐伯市、宮崎県延岡市・高千穂町・美郷町で震度1を観測しました。

29日00時08分 愛媛県中予の地震（深さ11km、M3.3）により、愛媛県今治市で震度2、松山市で震度1を観測しました。

30日19時38分 日向灘の地震（深さ25km、M4.1；震央分布図地区範囲外）により、高知県宿毛市で震度1を観測しました。この地震では、宮崎県川南町で震度3を観測したほか、熊本県、大分県、宮崎県で震度2～1を観測しました。

◎香川県の地震表（震度 1 以上）

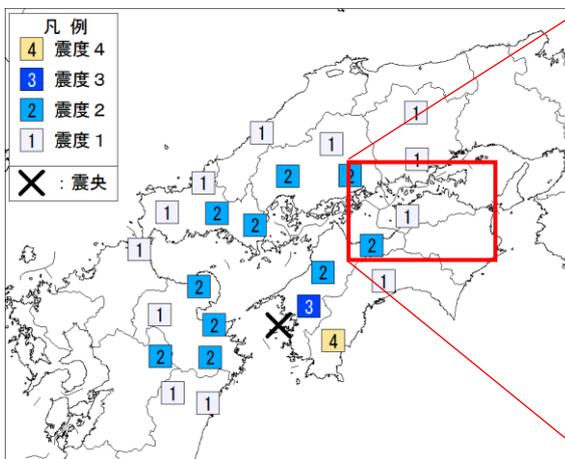
震源時（年月日時分） 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2024年06月01日04時02分 香川県 震度 1：観音寺市坂本町, 観音寺市瀬戸町*, 多度津町家中	豊後水道	33° 12.9' N	132° 21.3' E	39km	M4.5
2024年06月03日06時31分 香川県 震度 1：土庄町淵崎	石川県能登地方	37° 28.0' N	137° 18.1' E	14km	M6.0
2024年06月03日06時33分	石川県能登地方	37° 27.4' N	137° 20.3' E	15km	M3.4
2024年06月21日14時03分 香川県 震度 1：観音寺市坂本町, 観音寺市瀬戸町*, 観音寺市豊浜町*, 三豊市三野町*, 三豊市詫間町*, 綾川町滝宮*	安芸灘	33° 48.7' N	132° 39.8' E	44km	M3.9
2024年06月24日05時50分 香川県 震度 1：東かがわ市西村, さぬき市寒川町*	和歌山県北部	33° 54.9' N	135° 13.2' E	49km	M3.7

* は気象庁以外の震度観測点

* 震源が複数記載されている地震は、ほぼ同時刻に発生した地震であるため、震度の分離ができないものです。

◎震度分布図

2024年06月01日04時02分 豊後水道の地震



地域震度分布図

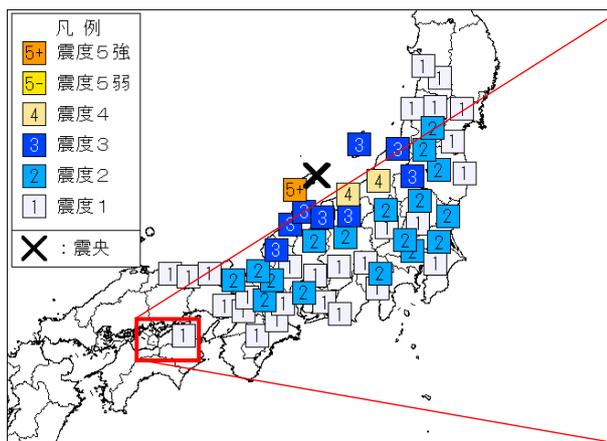


観測点震度分布図

* は気象庁以外の震度観測点

2024年06月03日06時31分 石川県能登地方の地震

2024年06月03日06時33分 石川県能登地方の地震



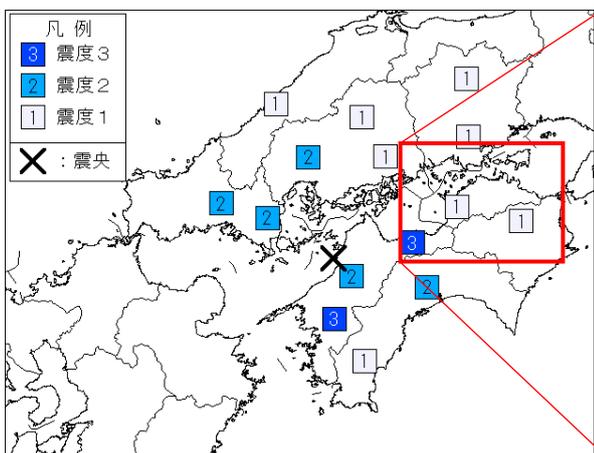
地域震度分布図

観測点震度分布図

* は気象庁以外の震度観測点

* 震源が複数記載されている地震は、ほぼ同時刻に発生した地震であるため、震度の分離ができないものです。

2024年06月21日14時03分 安芸灘の地震

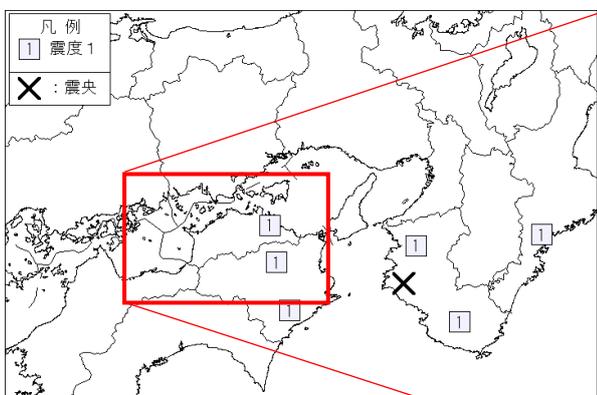


地域震度分布図

観測点震度分布図

* は気象庁以外の震度観測点

2024年06月24日05時50分 和歌山県北部の地震



地域震度分布図

観測点震度分布図

* は気象庁以外の震度観測点

【南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会調査結果】

気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催しています。

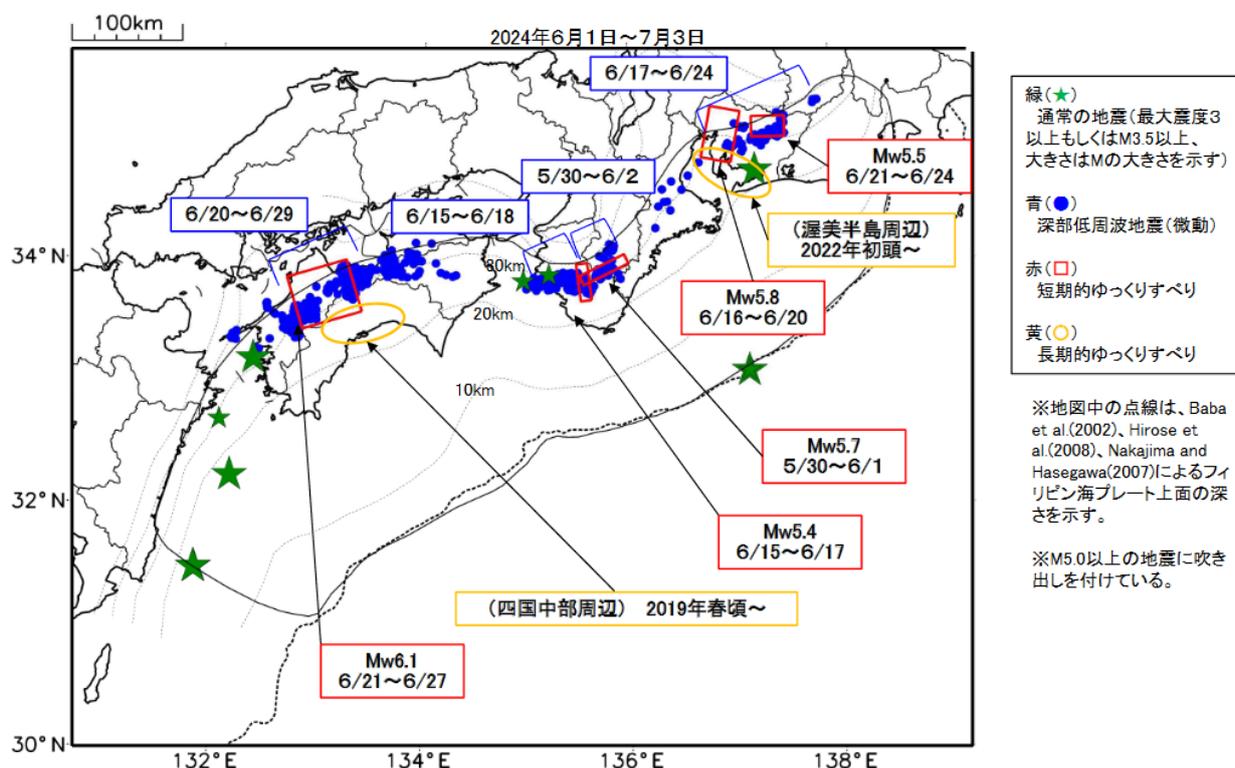
令和6年(2024年)7月5日に公表された評価検討会で評価された調査結果は次のとおりです。

【調査結果 (概要)】

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時(注)と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

(注) 南海トラフ沿いの大規模地震(M8からM9クラス)は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が70から80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過していることから切迫性の高い状態です。

【最近の南海トラフ周辺の地殻活動】



通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上).....気象庁の解析結果による。
深部低周波地震(微動).....(震源データ)気象庁の解析結果による。(活動期間)気象庁及び防災科学技術研究所の解析結果による。
短期的ゆっくりすべり.....【東海】気象庁の解析結果を示す。【紀伊半島中部、紀伊半島西部、四国中部】産業技術総合研究所の解析結果を示す。
長期的ゆっくりすべり.....【渥美半島周辺、四国中部周辺】国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。

気象庁作成

上図の深部低周波地震(青●)、短期的ゆっくりすべり(赤□)、長期的ゆっくりすべり(黄○)について、これらの現象は、プレート境界の固着状況の変化を示す現象と考えられることから、気象庁は、関係機関の協力も得ながら注意深く監視しています。

なお、詳細は、次の気象庁報道発表資料をご参照ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2407/05a/nt20240705.html>

また、最新の南海トラフ地震に関連する情報は次のページ(URL)をご参照ください。

ホーム>防災情報>南海トラフ地震関連情報

<https://www.jma.go.jp/bosai/nteq/>

【地震一口メモ】

8月26日が「火山防災の日」に制定されました

令和5年（2023年）、活動火山対策特別措置法（活火山法）の一部改正により、国民の間に広く活動火山対策についての関心と理解を深めるため、8月26日が「火山防災の日」と制定されました。火山防災の日には、防災訓練等その趣旨にふさわしい行事が実施されるよう努めることとされています。

明治44年8月26日、浅間山に日本で最初の火山観測所が設置され、器械を用いた近代的な観測がはじまったことから、この日を「火山防災の日」とすることになりました。8月26日の火山防災の日をきっかけに、火山の魅力・恩恵やその危険性を正しく理解し、火山災害に備えていただければと思います。



我が国最初の火山観測所

【浅間山の火山観測の歴史】

浅間山では、明治42年（1909年）から顕著な噴火が相次いで発生するようになり、浅間山麓の住民は天明3年（1783年）に発生した天明噴火のような災害の再来を恐れ、浅間山の活動に対する関心が高まっていました。

このため、長野県知事が文部省の震災予防調査会に対して浅間山の調査を依頼し、明治44年（1911年）8月26日に浅間山の西南西山腹（通称、湯の平）に我が国最初の火山観測所である「浅間火山観測所」が長野県予算によって建設され、震災予防調査会と長野県長野測候所の共同により、日本で最初の近代的な火山観測が始まりました。ここに、日本の火山防災が誕生したのです。

【火山防災とは】

火山防災は、火山で起きる現象が、人々の暮らしや命に被害を与えることを防ぐことです。火山で日々起きる現象は、必ずしも常に被害を与えるわけではありませんが、それが通常より活発になった場合には、被害を防ぐための行動をとることになります。

自然災害から身を守るために重要なことは「安全な場所にいる」ことです。自然現象は止めることができません。自発的に危険な状況から離れて、安全な状況を確認する必要があります。そのためには、「どこが安全で、どこか危険なのか」「危険な時はどういう時なのか」「危険な時や場所をどうしたら知ることができるのか」……このようなことを自ら知り、実際に行動できるようにしておく必要があります。

火山災害は、噴火などの火山で起きる様々な現象が発生してから被害を与えるまでの時間が非常に短く、現象が発生してから調べて行動するのでは間に合わないことがとても多いです。そのため事前に「どこが危険なのか」「危険な時の情報をどうやって入手するか」「危険な時はどう行動するか」を知っておくことが大切です。

【気象庁が行っている火山防災】

① 火山防災情報の発表

気象庁は、みなさんが危険を避け安全でいられる行動をとれるよう、その指針となる火山防災情報を各火山ごとに出しています。火山防災情報には、噴火の発生を知らせる「噴火速報」、噴火に伴って生命に危険を及ぼす火山現象が起きた・あるいは起きると予想されることと“警戒が必要な地域”（入山規制や避難が必要な地域）を知らせる「噴火警報」などがあります。

② 火山観測

日本には、全部で111の活火山があります。気象庁では、平常時と比べて異変がある場合や実際に噴火が起きた場合に、報道機関・都道府県・市町村などを通じて、住民や登山者のみなさんに火山防災情報をお知らせします。

なかでも、特に活動が活発な火山などの50の活火山の観測には、様々な種類の機器をたくさん火山の近くに設置して使っており、夜間休日も職員がリアルタイムの観測データを解析しています。この他にも、大きな現象があった際には、職員が臨時で現地調査に行くこともあります。

このように気象庁では、みなさんが危険を避け安全でいられるよう、火山防災業務を休むことなく行っています。皆さまが火山へ行く場合には、気象庁が出している火山防災情報を、ぜひご活用ください。



【香川県への影響】

四国地方に活火山はありませんが、九州地方等の火山活動で四国地方でも火山灰による影響を受けることがあります。大正3年1月12日午前10時過ぎに始まった桜島の大正大噴火では、南九州を中心に激しい降灰が観測され、愛媛県や高知県でも火山灰の降下を観測しました。香川県でも当時の多度津測候所において、13日夕方にかけて火山灰が薄く積もったことを確認しています。

直近では、2016年10月8日、阿蘇山の噴火により、阿蘇山の北東側約5kmの場所で降灰の量が3,800g/m²に達するなど、多量の降灰となっていたほか、熊本県、大分県、愛媛県、香川県、岡山県で降灰を確認しました。この時、香川県では降灰量は微量でしたが（火山噴火予知連絡会会報第126号p144）、降灰量が微量でも、火山灰が目に入ったときは痛みを伴い、火山灰が自動車のフロントガラスなどに付着すると視界不良の原因になったり、場合によっては、航空機の運航ができなくなることもあります。

【火山災害の種類】

「噴石」：

噴火によって火口から吹き飛ばされる岩石のうち、概ね20～30cm以上の、風の影響をほとんど受けずに飛散するものを呼びます。噴石は、避難する時間的猶予がほとんどなく、生命に対する危険性が高い現象です。

「火砕流」(かさいりゅう)：

噴火により放出された破片状の固体物質と火山ガス等が混合状態で、地表に沿って流れる現象です。火砕流の速度は時速百km以上、温度は数百℃に達することもあり、破壊力が大きく、重要な災害要因となりえます。

「火山泥流」：

火山活動によって火山を覆う雪や氷が融かされて発生し、火山噴出物と水が混合して地表を流れる現象です。流速は時速数十kmに達することがあり、谷筋や沢沿いを遠方まで流下することがあります。噴火が終息した後も、水と土砂が混合して流下することがあり、この場合「土石流」と呼びます。流速は火山泥流と同様、時速数十kmに達することがあります。

「溶岩流」：

溶けた岩石が地表を流れ下る現象です。流下速度は地形や溶岩の温度・組成によりますが、比較的ゆっくり流れるので歩行による避難が可能な場合もあります。

「火山灰」：

噴火によって火口から放出される固形物のうち、比較的細かいもの（直径2mm未満）をいいます。風によって火口から離れた広い範囲にまで拡散します。火山灰は、農作物、交通機関（特に航空機）、建造物などに影響を与えます。

「火山ガス」：

火山活動により地表に噴出する高温のガスのことです。噴火によって溶岩や破片状の固体物質などの火山噴出物と一体となって噴出するものを含み、「噴気」ともいいます。水、二酸化硫黄、硫化水素、二酸化炭素などを主成分としています。火山ガスを吸引すると、二酸化硫黄による気管支などの障害や硫化水素による中毒等が発生する可能性があります。

【参考】

「火山防災の日」特設サイト（気象庁ホームページ）

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/kazanbosai/index.html>

「主な火山災害」

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/volsaigai/saigai.html>

「火山噴火予知連絡会会報第126号」

https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/CCPVE/Report/ccpve_bulletin_126.html

「降灰予報で使用する降灰量階級表」

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/qvaf/qvaf_class.pdf

「災害教訓の継承に関する専門調査会 第4期報告書【火山災害】1914 桜島噴火 第2章 大正噴火の経過と災害」（内閣府 防災情報のページ）

https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/rep/1914_sakurajima_funka/pdf/05_chap02.pdf

「気候摘要 大正3年1月」（気象略報 第217号 香川県立多度津一等測候所）



「火山防災の日」
特設サイト2次元コード